

感染急拡大の今こそ、ワクチン接種を！

2022/8/3 編集委員 山口博弥読売新聞

新型コロナウイルス関連で先週、驚きのニュースが飛び込んできました。日本の新規感染者数が、7月18～24日の1週間で約97万人にのぼり、世界で最多だった、と、世界保健機関（WHO）が同月27日に発表したのです。

日本の新規感染者が世界最多に…1週間で97万人

新型コロナの国内感染者が見つかった2020年1月以来、日本はいくつもの感染の波に見舞われ、今も感染第7波の真ただ中にあります。それでも、感染者の絶対数は欧米諸国よりも少ない、と私は考えていました。「まさか、世界で最多になるなんて」と驚いた方も少なくないのではないのでしょうか。

前回第6波を大きく上回る新規感染者数

欧米で感染者数がどれくらい厳密に把握されているのか、やや疑問はあるとはいえ、今回の発表を聞き、日本の感染の急拡大ぶりはそれほど深刻なのだ、と私は認識を新たにしました。実際、すべての都道府県で新規感染者数が前回（1～2月の第6波）を大きく上回り、病床使用率は11県で5割を超えています（7月27日時点）。医療従事者の感染により病院のマンパワーが減った事例もあり、すでに一部の地域では医療逼迫ひっばくが生じています。

政府は、社会経済活動と感染拡大防止の両立を図るため、緊急事態宣言下などで実施したような行動制限は見送っています。しかし結果的に、感染急拡大に伴って、社会経済活動にもじわじわと影響が表れてきました。

小中高校、JR、郵便などに影響広がる

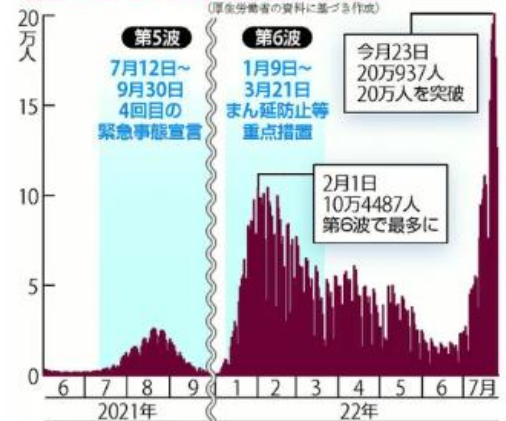
文部科学省の発表によると、学年・学級閉鎖のあった公立の小中高校などは1か月前の4倍以上に増加しました。JR九州は、運転士と車掌の計38人が新型コロナの感染者や濃厚接触者となり、運行に必要な乗務員を確保できないとして、8月5日まで在来線特急を計120本運休しています。日本郵便も、局員が感染者や濃厚接触者となり、全国の郵便局154か所で窓口業務を休止していると発表しました。いやはや、先行きがほんとに心配になってきます。

厳しい行動制限をすべきだとは思わない…感染抑止効果が不明

週間(18～24日)新規感染者数の上位5か国 ※WHOの集計に基づく 前週比

日本		96万9068人	73%増
米国		86万97	3%減
ドイツ		56万5518	16%減
イタリア		53万1327	26%減
フランス		50万8620	27%減

新型コロナウイルスの国内の感染者数



「救急搬送困難事案」が増加している主な地域 (7月11日～17日分)

※総務省消防庁の統計に基づき作成 前年同期比

福島市	200%
東京23区や多摩地区	167%
さいたま市	327%
神奈川県川崎市	372%
香川県高松市	1500%
福岡市	790%
熊本市	2233%
全国	160%

だからと言って、「やはり厳しい行動制限をすべきだ！」とは、私は思いません。前回のコラムで少し書いたように、過去の行動制限にどれだけ感染拡大を抑える効果があったのかは分かっていません。オミクロン株が、感染力の強いB A. 5、さらにB A. 2. 7 5など次々と変異する中で、感染拡大防止と社会経済活動の両立への「最適解」を探るのは至難の業です。

ほとんどの日本人は、マスク着用や3密回避、換気といった感染予防対策に気をつけているはず。「これ以上、どうせえっちゅうの！」って怒りたくもなります。

ポイントは若者の3回目接種と高齢者の4回目接種

そんな中、政府は7月29日、新たな対策案を発表しました。病床使用率が50%を超えた場合などに、都道府県が「B A. 5対策強化宣言」を出す。その地域では、▽早期にワクチン接種を受ける▽高齢者や基礎疾患のある人は感染リスクの高い行動を控える▽帰省で高齢者と接する前などにはウイルス検査で陰性を確認する——ことなどへの協力を住民に呼びかけます。

4回目の新型コロナワクチン接種を受ける女性
(2022年5月)

特に目新しい内容ではありませんが、最も効果が期待できるのは、やはりワクチン接種ではないでしょうか。付け加えると、力を入れるべきは若年層の3回目接種と、60歳以上の人などに対する4回目接種だと思います。

厚生労働省がまとめた7月20～26日の新規感染者を年齢別にみると、20代が最も多く、次いで10代、40代、30代、10歳未満と続きます。計算したところ、30代以下で新規感染者全体の60%、40代まで広げると全体の76%を占めています。

一方、日本人の接種率は、1回目が82.0%、2回目が80.9%と8割を超えているのに対し、3回目は62.8%にとどまっています。3回目の接種率を年齢別にみると、60代以降は8割を超えますが、40代は59.9%、30代は51.1%、20代は47.4%、12～19歳は33.2%しか接種していません（ちなみに、5～11歳で1回以上の接種を受けた人は2割未満）。

このことから、今の爆発的な感染拡大は、3回目接種を受けていない若年層を中心に広がっていることがうかがえるわけです。

現在、国内で使われているワクチンは、オミクロン株に対しては感染予防効果が低く、効果が持続する期間も短いけれど、様々なデータから「重症化予防」の効果はあるとされています。仮に感染したとしても、無症状や軽症のままなら、自宅療養にすることで病院の負担を減らすことができます。そもそも、オミクロン株の重症化率が低いと言われているのも、ウイルスの性質のせいだけでなく、一定数の人が3回目接種を受けているおかげだ、という専門家の見解もあります。

3回目の接種を受けない人の中には、1、2回目の時の発熱や 倦怠けんたい 感などの



副反応がかなりつらく、「もうあんなきつい思いをしたくないし、仮に感染しても重症化しないのなら、もういい」と考えている人もいるでしょう。実際、私の知り合いにも、そう話している人が何人かいます。

感染・発症・重症化を防ぎ、免疫力を強化する

でも、いま一度、考えてほしいのです。

新型コロナウイルス感染者が増加し、対応に追われる保健所の関係者ら（2022年7月、東京都江戸川区で）

若い人の中にも重症化する人が確実にいて、感染者が増えれば増えるほど重症者の数も増えます。そうして医療が逼迫すれば、ほかの助かるはずの命を救うこともできなくなってしまいます。それでも、「自分は若いから感染しても大丈夫」と言えるのでしょうか。今の日本の感染急拡大と医療逼迫を少しでも抑えるためには、できる

だけ多くの国民がワクチン接種で感染・発症・重症化から自分の身を守り、同時に、人にうつさないようにすることが大切だと思います。

